

<人吉球磨地域／医療・福祉・教育団体>

日 時：令和2年11月2日（月）14時30分～16時00分

会 場：球磨地域振興局2階大会議室

参加者：15名

【発言者①（人吉市社会福祉協議会）】

人吉市社会福祉協議会の〇〇でございます。

本日は発言の機会をいただき、ありがとうございます。よろしくお願いいたします。

まず、今回の災害で犠牲になられた方々及び被災された方に対し、改めてお悔やみとお見舞いを申し上げます。

人吉市社会福祉協議会は災害発生から6日後の7月10日に、球磨村と合同の災害ボランティアセンターを立ち上げ、活動を開始してから約4か月が経過としています。

その間に、延べ1万7,000人を超える県民の皆様にボランティア活動に参加していただき、延べ1,400件を超える現場に出向いて活動をする事ができました。

多くの皆さんにスタッフとして協力いただき、また車両や資機材などをご提供いただき、続けてこられた活動であり、この場を借りましてお礼を申し上げます。

さて、私たちがボランティア活動に際し、被災された方々に今後の再建に向けた考え方をお聴きすると、時間の経過とともに、現在地で家を修復して住み続けたいという意向を持つ方が増えていっているようです。

年齢のこと、経理負担のことなどの理由もあると思いますが、それとともに皆さん住み慣れた地域コミュニティを離れたくない。決して球磨川を嫌いになったわけではないということだと思います。

このような方たちを今後の災害から守り、安心して住み慣れた地域で住み続けていただくためにはどうすればいいでしょうか。

今回の想定を超えた大水害は、地球規模の気候変動がもたらしたものと考えられるべきであり、それが要因であるとすれば、今後いつまた水害が発生するかわからないし、いろんな河川防災対策を講じても完全に防ぐことはできないでしょう。

現実的な対策として考えるべきことは、ハード面の河川防災対策によって洪水の規模を縮小し、それと並行してソフト面の対策を講じることにより、被害を最小限に抑える、すなわち家屋などの物的被害をできるだけ少なくしながら、人

的被害をゼロにするということです。

ソフト面の対策としては、自助共助の充実強化があります。

自助の動き出しに、もっとも大切なのはできるだけ早い時期に切迫した危険な状況を直接住民の皆さんに伝えて、行動を起こしていただくことです。

その手段として、人吉市には防災無線の施設が整備されていますが、これが雨や風が強いときにはほとんど聞き取れないものであることは周知のとおりでございます。

直ちに人を動かすために、もっと実効性があるのは、電話回線などを使った戸別受信機を各家庭に配備し、直接連呼することです。

その配備を速やかに実施することが困難であるならFM放送を使って、各地で行われているコミュニティFMという伝達方法もあります。

これは平時にも有事にも有効なツールだと考えております。

共助については、私たち社会福祉協議会が日頃取り組んでいる業務とも共通するものです。

地域の支え合いや見守り活動を推進する小地域ネットワーク活動や、生活支援体制整備事業、高齢者を総合的に支援する地域包括ケアシステムの構築などの取り組みのなかで、緊急時の助け合い、互助の精神についても早急に取り組んでまいります。

最後に私たちが運営しております、災害ボランティアセンター、地域支え合いセンターの活動に、引き続き強力なご支援、ご協力をお願いいたします。

ありがとうございました。

#### 【発言者②（球磨村社会福祉協議会）】

球磨村社会福祉協議会の〇〇といたします。

今、人吉市の〇〇さんが言われましたとおり、災害ボランティアセンターを共同で設置をさせていただきました。

大変、ボランティアの方にはお世話になって、だんだん縮小はしているところですが、なかなかまだ再建したいというニーズが増えているところもありますので、そちらのほうもまだ準備をしていきたいと思っております。

現在、社会福祉協議会で、要望したいという点をちょっと言わせていただければと思います。

今現在、デイサービス、ヘルパー事業を実施しておりますけれども、特に球磨村の道路事情が悪く、村道、県道、橋梁もない状態でございます。

橋梁も、あっても一本だけということで、それを使って行き来しなければならないということで、利用者を送迎するのに非常に時間がかかっている。

それと道が悪いので高齢者には負担がかかりすぎるということで、今ちよっ

とその辺を考えているところでございます。

それと老人福祉施設の千寿園さんが被災されて、現在営業されておられませんので、今いろいろ高齢者の要望が出て来ておりますけれども、「せせらぎ」施設自体がそんなに大きくありませんので、人数の限界がありますので、福では施設の整備を早くお願いできればと思います。

それと生活再建ということで、村内にやはり住みたいという方が結構おられますので、住居の確保、住宅地の確保を早急にお願ひできればと思っております。以上です。

**【発言者③（相良村社会福祉協議会）】**

お世話になります。相良村の〇〇と申します。

災害ボランティアセンター関係では、地域支え合いセンターを立ち上げるにあたって住民の方とお話をするなかで、農地を転用して宅地にしたいという希望が何名か上がってるんですけども、許可が出るまで3年ほどかかるというようなことで、いろんな他の選択肢をとということで、なかなかその地域に住み続けたいけれども今の場所は嫌だと、ちょっと高台に住みたいといった場合に、農地の転用がネックになるというような事例がありまして、せっかく発言の機会をいただくので、そういうことがあったということをお場で伝えたいと思っております。

それともう一件なんです、水害後に急いで家の片付けをされて、応急修理をされて、3か月後にはカビ臭くなってきたという事例がありまして、これは私は倉敷市と岡山県の建築士会がつくられた「水害に備えて」という冊子をボランティアの方からいただきました。

センターを始めて1か月後にいただいたので、なかなか周知の機会がなかったんですが、もしここまで浸かったら20センチ上まで確保しないとカビが出て来ますよとか、そういう具体的なことを書いてあるので、そういう情報をあらかじめ提供するなり、発災後急いで提供するなりしていくことが生活再建に大変役立つんじゃないかなと思っておりますので、一応それだけ、どうかたちになるかわかりませんが希望をしておきたいと思っております。よろしくお願ひします。

**【発言者④（山江村社会福祉協議会）】**

山江村社会福祉協議会の〇〇と申します。よろしくお願ひいたします。

まずは今回の災害で被災された皆様に対しまして、心よりお悔やみならびにお見舞いを申し上げます。

山江村のほうはとにかく人的被害は一人もなく、安心したところだったんですが、万江川の氾濫で家屋の被害、また土砂崩れにより道路がなくなって孤立を

されたりということが多数あられたということで、あまりのひどさに言葉を失ったところでありました。

現在、大分、道も復旧している状況ではあるんですが、まだ全面通行止めの県道、村道ともにたくさんあります。

道の被害を受けた先に住まれている方々も何人もいらっしやいまして、その方々は要支援者の訪問を毎日のようにしている状況でありますので、またいつ崩れてくるかわからない道路を毎日通っている状況ということで、一日も早く安全に通行できるようにしていただきたいなということを思っております。

山江村でも、人吉さん、球磨村さん、相良村さんに比べては小規模な被害だったんですが、災害ボランティアセンターのほうを立ち上げまして活動をしてまいりました。

といいますのは、何もわからずに混乱していたんですが、県の方、社協の方、各関係機関の方から、頼んでいないのにいろんな支援をしていただき大変助かりました。ありがとうございました。おかげで、かなりボランティア活動のほうは進んでいるところです。

本当にボランティアの方のお力はありがたくて、何度もおいでくださって、作業をしていただいた方もたくさんいらっしやいます。

もっと幅広い世代の方に、若い方が割と少なかったというのもありましたので、もっと協力いただけたらありがたいなと思います。以上で終わります。

**【発言者⑤（特別養護老人ホーム鐘ヶ丘ホーム）】**

あさぎり町にございます、特別養護老人ホーム鐘ヶ丘ホームの〇〇と申します、よろしく願いいたします。

私の施設は、今回の災害におきましては、ちょっと高台にございましたので、特に施設として被災はございませんでした。

ただ、職員が数名被災したという状況のなかで、運営をしながら4つの支援活動を行ったところです。

発災直後には、まずは、人吉球磨地域の今回被害に遭われている方々の要介護者の緊急ショートを受け入れ。次に、被災されている入居者で行き場がなくなっている方々を、災害救助法に基づく定員超過によって、受け入れを行っているというふうな状況でした。

それと、私どもは複数の業界団体に加盟しているんですけれども、全国社会福祉法人の経営者協議会という団体の支援物資の二次拠点ということで、熊本市内の会長施設からの一次拠点からの二次拠点とあって、翌日から活動を行いまして、人吉球磨地域の主に社会福祉法人に対する支援物資の供給を行ってまいりました。

最後になってしまったんですけれども、福祉避難所のほうの開所の依頼を受けていたんですけれども、実際受け入れが8月に入ってから、その後延べ44日間、福祉避難所の開設を行っておりました。

私どものほうが初めて福祉避難所の開設を行ったということで、いろいろと町の協定、そういうのがあったんですけれども、いろいろ参考にしながら運営をさせていただきましたけれども、やはりこのコロナ禍において、まずは私どもは高齢者施設でございますので、まずは入居者をどう守っていくのかというところと、コロナ禍での運営に大変苦慮したというところでございました。

ただ、熊本県内の熊本県社会福祉士法人経営者協議会のほうで、福祉避難所を別途開設するにあたって、応援職員さんの派遣を行って、熊本DWA Tというのを活用していただきまして、途切れもなく派遣をしていただいたという、大変私もそういうスキームを使わせていただいて、支援体制が整ったということで、避難所を運営できたということでございました。

ただ、やはり課題としましては、こういった災害になりますと、いろんな団体のほうからいろんな話がきてしまうんです。

そこでどの組織でどうまとめていくかということがやはり非常に大事なのではないかなということで、そこを誰が取りまとめていくのかというところがやはり今後、やはり非常に無駄な動きが多い。それぞれの団体がそれぞれ同じようなことをやっているというようなことで、やはり意固地になっていまして、そこを今後、行政機関なのか、県社協なのか、そのあたりを踏まえて役割分担をしていくと、より早い展開で福祉避難所への受け入れ及びそこからの解消に向かって進んでいくのではないかなというふうに思いました。私のほうから以上でございます。

#### 【発言者⑥（人吉市歯科医師会）】

人吉市歯科医師会の〇〇と申します。

今回の災害支援においては、県から避難所への支援物資調達及び避難所の訪問調査、口腔ケアに歯科衛生士を派遣していただきまして、熊本県からのご支援に対し感謝申し上げます。ありがとうございました。

このたびの豪雨災害によりまして、私の人吉市歯科医師会のおよそ半数が、私の歯科医院も含めて13歯科医院が被災しました。

いまだに2軒の歯科医院が再開にいたっておりません。解体を余儀なくされている先生もいらっしゃいます。

私が直前にアンケートを取りましたので、そのなかから抜粋して述べさせていただきます。

はじめに、今後の復旧・復興についてですが、大きく3点ほど要望がありまし

た。

一つは補助を伴う自費解体の期限です。これが2、3か月では非常に短いという要望がありました。

もう一点が、被害状況と診療台です。診療台は固定されておりまして、なかなかすぐには移動できません。明らかにもう診療台は全て使用不可能で全壊の状態にも関わらず、建物の構造上半壊扱いに判定されていることで、非常に不利益を被っている先生がいらっしゃいます。規則とはいえ、改善の余地があるかと思えます。その辺のフォローをよろしくお願ひしたいと思えます。

もう一点ですが、り災した患者さんの窓口の一部負担金の減免措置についてですが、医科における入院もですけれども、歯科の治療は1回で終わることがなかなかありません。県知事も体験されていらっしゃるかと思えます。

そのことで長期の治療になることが多いので、できれば一部負担金の免除の期間の延長をお願ひしたいということで、歯科医院の再開が来年になりそうな歯科医をかかりつけにしている患者さんにとっても、できれば今年度まででなく、来年の7月以降も窓口の負担金が免除となるよう、県からぜひ国へ要望をお願ひしたいと思えます。

この他にも、アンケートでは仮設住宅地域の街灯とか、交通の便の改善などについて要望があります。

二番目の治水対策の方向性については、堤防などが建設されたときに立ち退きの問題が起こらないかということをお心配している会員がいらっしゃいます。

それと治水も大事だが、町の移動とかそういうのも考えたらという意見がありました。

それともう一つ、すごい長文でいただいた意見が一つありまして、三度の水害を身をもって経験された先生がいらっしゃいまして、その方によれば、今被災者が望んでいるのはダムではなく、災害からの復興であるとの意見をいただいております。

私としてはとにかく住民が納得して、みんなが安心できる治水対策を望みたいと思えます。

最後になりますが、私の歯科医院の近くにある地区の小学校の来年度の新一年生がいつもの6割に減りました。

今回の豪雨災害をきっかけにして、人吉球磨地区の人口の流出に拍車がかからないような手立てを行政にはお願ひしたいと思えます。よろしくお願ひします。以上です。

【発言者⑦（人吉市医師会）】

遅くなってすみません。私は今、第一回人吉復興計画策定委員会に行っておりました。

今日のこの意見を述べる会に先立って、私は人吉市医師会の全員にアンケート調査をしました、その結果を読みしたいと思います。

まず簡単にいきます。

アンケート集計結果、42医療機関、会員数78人、回答者50人、勤務医の先生はちょっと回答が少なくなっている、50名ぐらいです。

川辺川ダム建設に、反対32、賛成8、どちらでもない10。

熊本県国土交通省の説明は不十分37、満足2、どちらでもない11。

人吉市街地の球磨川の堆積土砂の撤去、早急にすべき49、しなくてよい0、どちらでもない1。

川辺川ダムより復旧生活支援が先ではないか、YES38、NO0、どちらでもない10、未回答2。

今回の豪雨の国土交通省の検証結果は、信憑性が高い2、信憑性が低い20、どちらでもない・またはわからない23。

そのほか先生方に熊本県に要望があれば伝えてくださいというのがたくさん書いてありますけれども、時間を考慮し省略します。

知事のほうにはその具体的な記載内容は提出しております。

これからは私の意見ですけれども、川辺川ダム問題に党利党略を持ち込んではいけません。

2008年、相良村長、人吉市長に続いて、蒲島熊本県知事が白紙撤回されました。

当時、たまたま民主党政権だったのですが、民主党の決定はけしからん、前の人吉市長の決定はけしからん、とよく自民党の方々は言われます。人吉・球磨の自民党員は人口の1%未満ですが、厳然たる勢力を持っているのも事実です。

しかし、人吉の未来を左右する大切な問題に党利党略をもってきてほしくはありません。穴あきダムだって、川辺川が清流でなくなること、ある程度知識があればわかります。

川辺川ダム問題のないときに、今の人吉市長、今の相良村長は当選しています。

しかしながら仮に川辺川ダム問題が浮上していれば、選挙結果は明らかに逆の結果になっていたでしょう。

蒲島熊本県知事、知事も無所属ですよ。

僕も無所属です。しかし、私は無所属ですけれども、熊本県第4区の熊本県医師連盟の選挙責任者でもあります。ですが、反対しております。

こと川辺川ダムに関しては、党利党略を持ち込んではいけません。私はそのように確信しております。

そしてただ今、復興基本方針というか、人吉市のどういう町につくるかという、人吉の復興計画策定委員会の第一回がたった今あったんです、第一回ですよ。

そして何と書かれているかというと、市の説明では、「市民一人一人が主役ですから」と言われたんです。

そしてビジョンのところですよ、ビジョンのところ。「市民の心の拠り所となり、日々の生活を支え、多くの恩恵をもたらしてくれた球磨川への想いがあります。災害からの復旧・復興を進めていくうえでは、球磨川をはじめとする自然が私たちの暮らしと切っても切れない存在であることを認めつつ」ということで、復興のビジョン、「球磨川とともにつくる、みんなが安心して住み続けられる町」と書いています。

結局、これから人吉をどういう町にするかというのはようやく今日、復興計画策定委員会という会議が始まったんです。

ですから、どういう町にするかという計画は、今日の市の説明では来年の3月に策定する、素案ができるのが1月末と書いているんです。

市民が主役と言われたから、結局市民がどういう人吉をつくっていききたいのかということをやはり議論する場ですから、僕が知事をお願いしたいのは、人吉がまずどういう町にするかというのを見届けてから、熊本県は決定してもらいたいと思います。

それが私の個人的な考えです。最初のアンケート結果が医師会の総意でございます。以上です。

#### 【発言者⑧（球磨郡医師会）】

球磨郡医師会の〇〇です。

医療に関しまして、悲惨な人吉市、球磨村の状況を見ながら、こちら球磨川沿いのところの医療関係はほとんど無傷で残ったところは非常にラッキーでしたので、そういう面では本当に厳しい状態で被災された、そういった人吉市球磨郡側の先生方が、今後頑張って医療を提供されて、よく頑張っておられているのに本当に敬意を表しております。

今までも当地区では少子高齢化、人口過疎が深刻になっておりまして、今回の災害にも巻き込まれまして、厳しい状況になっていくんではないかなと思っています。

そのなかで町もコンパクト化しながら、何とか機能を維持していかなければならないのかなと、そういうことを考えております。

ただ、今の段階では、被災者の方々の生活安定のために、まず耳を傾けていただくのが、とりわけ大事なことではないかなと思います。

ダムという長期間大きなお金がかかることに対して、感覚的に、結論を出すの

は早すぎると思います。

今はまだ、被災者の方たちが、生活が安定し、立ち行くように関わって頑張っ  
てやっていただくのが一番大事なことだろうと私は感じております。

それと、私に関わっています医療に関係しましては、この地域に住む住民の皆  
さんに対する医療の提供、サービスの提供が大きく不利を被るようなことがあ  
ってはなりませんし、今度の災害を通して、こちらの医療が低下するというこ  
とは、本当にここの地域に住む住民の人たちの健康に対する不安を助長するこ  
とになりますものですから、医療のレベルを低下しないように、医師会としても  
もちろん他の病院と協力しながら、それを医療の立場として頑張っていかなけれ  
ばならないと思います。

こちらも昔から慢性的に医療、介護もですけれども、スタッフを確保するに非  
常に難儀しておりますので、それがさらに難しくなるなかで、何か連携しながら  
頑張っていかなきゃいけないのかなと思っております。以上です。

#### 【発言者⑨（球磨郡歯科医師会）】

球磨郡歯科医師会の〇〇と申します。

郡の歯科医師会の活動としては、災害の翌日から支援活動をさせていただき  
ました。郡の歯科医師会の気持ちをちょっと述べさせていただきます。

忌憚のない意見ということで、少し厳しい意見を言わせていただくことをお  
許しいただきたいと思っております。

川辺川ダムの話がもちあがったのは、度重なる水害が大きなきっかけである  
と記憶しております。

ダムが中止になって、このような事態になったのは、いろいろとすばらしいデ  
ータを見せていただきましたが、結果として治水整備が有効にできていなかっ  
たということだと私は考えます。

それは県の姿勢が、もっと県南に関心を持っていただきたいということと、行  
政にはもっと頑張っていたら良かったなと思っております。

聞くところによると、現場を見ずに写真、メールとかりモトで指示を出す行  
政職員もいたということを知っております。やはり現場で、生で指示を出してほ  
しいと考えます。

治水事業は、私はダムを含めて早急にやれることを全てやってほしいと思っ  
ています。最も短期間で有効なのは、やはりダムかと考えます。川の護岸工事と  
か川底の浚渫は50年から100年ぐらいかかると聞いております。

もちろん、これも必要ですけれども、ダムも考えていただきたいと思っております。

人吉球磨の家屋を今より10メートル以上高台に移すことも必要じゃないか  
なと考えています。ダムの反対団体は川が死ぬといっていますけれども、災害の

みに特化したダムで、通常は自然な川が流れるように下のほうに大きな穴を開けて橋のようにして、豪雨時だけに、諫早湾の堤防に似たかたちで調節的に閉門してダムの役割を果たすようにすることは技術的に可能なのかわかりませんが、検討していただきたいなと思います。

川が死なないようにして人が死んでもいいのか、と私は考えています。

支流を含めた砂防ダムとか川の護岸工事、海底、川底の浚渫、高台に移設など、早急に着手し、来年も多分同じ災害がこないとも限りません、ぜひ豪雨に備えていただきたいなと思っております。以上です。

#### 【発言者⑩（人吉球磨薬剤師会）】

人吉球磨薬剤師会の〇〇と申します。

うちの会員のなかでも、今回の水害で、今、人吉市内に36店舗あるんですけども、そのうち21店舗が被災し、機能を失いました。

結局、お薬を必要としている患者さんも多いものですから、まず開いている医療機関で、それとか薬局を調べようということで、先ほど、まとめのなかにあっただんですけども、そのときちょうど電話もつながらない状態で、それから携帯もつながらない状態だったものですから、もう歩くとか車で乗っていても道が通れないということで、ある程度そういうかたちで受入れ体制ができる薬局、医療機関を探して、困っておられる患者様に「あそこは開いていますよ」という指導をしてまいりました。

今は、その店舗は全部仮店舗等で、患者様にご迷惑かけないように、みんな営業をしております。

これも保健所の職員の方のご指導によるものだと思っております。

今後、先ほども言いましたけれども、仮店舗で営業されている薬局への財政の支援とか、許認可関係の手続きなんかも今から出てくると思いますので、またそのときにはご指導をお願いしたいと思っております。

それから治水対策のことですけれども、新聞紙上ではちょっと流域治水というかたちで出ていたんですけども、要はイメージというかたちで26ページのほうに書かれて、こういうやり方をされるのかということ、今ちょっと見ているんですけども。今、説明を聞いているなかで、球磨川本流に流れ込む支流関係で、川辺川の流水だけ今説明を受けているんですけども、他に球磨川の支流というのは13か所あるとお聞きしているんですけども、その辺のデータはないのでしょうか。

もしその辺からの流れ込み、当然、川辺川の上流にも支流がいくつかあるかと思うんですけども、その辺の影響も当然あったんじゃないかと、当然、そういう流域治水を考えたのならば、その辺の治水工事とか、そういうのも一つの機会

じゃないかと思っております。

もしそういうかたちで、今から実施されるならば、当然アセスメントとか漁協との協議なんかが出てきて、またかなりの時間を要するかと思えます。

それよりまず先に、安心して住める場所の確保というかたちで、住民からの意見なんかもあるかと思うんですけれども、それとかまだまだ手付かずの場所もあっております。それをまず先にしてからの話じゃないかなとは私は思っております。以上です。

【発言者⑪（独立行政法人地域医療機能推進機構人吉医療センター）】

人吉医療センターの〇〇です。病院の状況については、医療学会のほうに論文が掲載されましたので、ご入用の方は病院に連絡していただければ、まだコピーはございます。

それから今回、先週急遽職員530名にアンケートをとりまして、380名返って来ております。まだ、今週も戻ってくると思えますので、さしよりとまりましたのをお渡ししたいと思えます。ご覧にいれたいところです。

まず、初めに今回被災した職員が66名いました。

患者さんからは自宅やお店の解体修理に早く取り組んでほしいという要望がありました。

それから、治水に関しては、堤防建設から、長年に渡り堆積した堆砂に加え今回の水害の土砂がかなり加わって、堤防の容積は大幅に減少していたのに、いつまた水害が起こるかわからないということで、これまでほとんど行なっていないと思えますけれども、河川の堆砂の除去や掘削、堤防のメンテナンスを早急に行なってほしいという意見が、圧倒的に多かったです。

加えて、森林の保全による保水に力を入れていただき、山や川のメンテナンスを徹底して、山河を育てる方向で考えていただきたい。河川の砂利や堆砂は上質な砂として資源利用できる。山河のメンテは永続的に雇用を生み、観光や関連した副産物をも生み出すんじゃないかということです。

また長期的には、やはり高台に移転するなど、まちづくりと関係したような意見もでした。

ダム建設を希望する人はあまり多くなくて、大半の職員が川辺川や球磨川が観光に必要で、日本一の清流は残すべきであるというふうに考えています。

今回は、線状降水帯の予測は難しいということであったんですけれども、一般的には水害は地震と違って、予測可能で早めに避難すれば命は助かる。この地域は高齢者が多いので、近所に声かけ、あるいは避難する意識等、地域力というのが大切じゃないかなというふうに思えます。

今回も若い人でやはり早く高台に何人か引っ張って逃げた人はいたわけです。

そういうのが大事じゃないかなというふうに思います。

ただ、そのために行政は、現在の人吉市内の各地に掲示している計画規模のハザードマップというのがまだ掲示してあるわけです。国土交通省の。だからやはり、想定最大規模のハザードマップにさっさと張り替えていただいて、住民への徹底した周知をお願いしたいと思います。

今回の豪雨で、川から離れたところ山間部の地域は土砂災害や道路の寸断などが数多くありました。そのなかで人工的に作ったものは簡単に壊れましたよ、というふうにその人が言われたのが、一番印象的でした。

ダムや堰堤も土石流を防ぎきれません。大規模水害の自然の猛威をこの地から100%防ぐことはできるわけではありません。しかし、命の危険にさらされた今回の被災者のなかで、移住を希望せず元の土地に戻りたいというおっしゃる方が多いのに驚きます。基幹産業である観光、農業そして教育、医療、雇用が整い、若い人たちが定着するまちづくりは大至急必要だと考えております。以上です。

#### 【発言者⑫（人吉市立西瀬小学校）】

西瀬小学校の〇〇と申します。7月4日の豪雨災害で、西瀬小学校は子どもたち、児童209人の60%以上が被災しました。内訳は123人が床上浸水、これは全壊、大規模半壊を含みます。それから6人が床下浸水でありました。そのときの様子を聞いたところでは、泥水が胸まで迫るなかを親に手を引かれて避難したりとか、それから家を失ったり、大切な思い出を流されたりといった辛い経験をして、多くの子どもたちが心にストレスを受けました。

学校が再開しましてから、ストレスチェックというのを行ないましたが、このなかで点数が高い、つまりストレスが多いという子どもたちが40人ほどおりまして、カウンセリングが必要となりました。

大変困りましたけれども、県のはからいで週に3人カウンセラーを派遣していただきまして大変お世話になりました。

また西瀬小学校は学校と子どもたちの家々を結ぶ西瀬橋が流されまして、通学路が寸断されました。その3日後には早速県から事情を聴きに来られ、安全を確保するための見守りについて、西瀬橋はちょうど2か月後の9月4日に再開ということになったんですけれども、その2か月に亘って県から毎日、見守りの応援をいただきまして大変助かりました。本当にありがとうございました。

水害から約4か月が経ちます。学校の中で見る子どもたちは随分と元気になってきているように見えます。

それは日頃のあいさつとか返事の様子や、今も行なっておりますカウンセリングの様子を見て、そういうことを思います。

被災して130人の児童が避難をし、毎日毎日保護者の車で送り迎えを余儀なくされていましたが、この4か月で避難所や親戚、それから友人の家から仮設等に転居したり、自分の家に戻ることができたりしまして、多くの子どもたちが移ることができていますが、まだ50人ほどは校区外からの通学となっております。このなかでももちろん仮設に転居するとカリフォルニア待ちだったりとかそういうこともあるのですが、そのような校区外からの保護者の車の送り迎えが、毎日毎日ということ、お仕事も大変な中で、大変保護者にはお世話になっているところで、少しずつこれが解消していくことを願っているところで

最後にですけれども、災害は恐ろしいもので復興は本当にこれからですけれども、一方で学校としてはさまざまな県内外から災害物資や激励のお便りや千羽鶴また義援金等もいただきまして、人の心のやさしさを知ることができたこと、また今まで存じ上げなかった、全く知らない方々との心のふれあいができたこと、何よりも世の中での感謝の気持ちを持つことができたことは、子どもたちの今と将来のためにも大変ありがたいことだったと思っております。以上でございます。

#### 【発言者⑬（球磨村立渡小学校）】

球磨村立渡小学校の〇〇でございます。

本日はこのような機会をいただきましてありがとうございます。どうぞよろしく願いいたします。

まずはお礼を申し上げます。発災直後から熊本県、熊本県教育委員会、熊本県球磨教育事務所から人的・物的支援とハード面ソフト面におきまして多くのご支援をいただいております。本当にありがとうございます。

本校は校舎1階の天井部分まで浸水いたしました。教室、保健室、図書館、職員室、事務室、校長室の全てが水没いたしました。

そういう状況でしたけれども、全校児童78名が全員無事であったことがなによりでございました。

全校児童78名中56名が被災をしました。これは全校児童の71.8%にあたります。現在は仮設住宅や自宅等から97%の児童がスクールバスで登校をしている状況でございます。

本校では児童の心のケアを大事にしたいと考えております。学校再開時、子どもたちにアンケートをとりまして、心のケアを行なってまいりました。

雨が降る日には子どもたちから「また水に浸かるのかな」とか、「何か物が落ちてこないかな」とかというような声も聞かれました。

現在、熊本県からスクールカウンセラーを配置していただいております。

週に一日来ていただき、子どもたちの心のケアを図っていただいているところ  
です。

今後、発災から日にちが経つにつれての心のケアもさらに必要ですので、今後  
もスクールカウンセラーの配置の継続をお願いしたいと思います。

また、スクールソーシャルワーカーにつきましても、入っていただければあり  
がたく思います。

本校は発災から約1か月休校をいたしました。そして8月3日から同じ村内  
の一勝地小学校で学校を再開しております。

一勝地小学校の一部をお借りし、また運動場にプレハブ教室を設置してい  
たきまして、学校を再開しております。

発災一か月後に学べる環境を作っていただき感謝をしておりますが、現在、施  
設面での課題が見えてきていることも事実でございます。

教室が狭い、トイレの数が足りない、運動場が狭い、というのが現状です。

子どもたちからは「運動場で思いっきり遊びたいです」とか、保護者からはラ  
ンチルームを2つに仕切って勉強している姿を見て、「プレハブの教室はできな  
いのですかね」とか、職員からは「本当、校舎が欲しい。なんか朝起きたら校舎が  
出来てないでしょうかね。」というような声も聞かれました。

このようなことから今後は単独の渡小学校としての校舎ができ、子どもたち  
が広い教室でのびのびと学び、安心して生活を送り、運動場で思いっきり運動し  
たり、遊んだりできる日が来ることを希望しております。どうぞよろしく願  
いいたします。以上でございます。

#### 【発言者⑭（人吉市立第一中学校）】

人吉第一中学校の〇〇でございます。どうぞよろしく申し上げます。

本校はすぐそこに見える学校でございまして、ちょうど医療センターの道を  
挟んで反対側になります。医療センターの前の道が浸水して、あと1メートルで  
学校に来るところまでできましたけれども、どうにか学校への被害はまぬ  
がれたところでございました。

本校では生徒の被害が床下浸水が10件と床上26件ということで、市内の  
西瀬小学校とか、それから二中に比べると随分うちは被害としては少なかった  
と思います。

体育館は一時期、球磨村の方々の避難所となりまして100名以上超える  
方々が避難されておりました。

体育館は2か月間避難所として利用されましたが、国や県からたくさん  
の方々が支援にこられまして、ほとんど学校の運営に支障がないような、もちろん  
体育館は使えませんでしたけれども、あとは運営に支障がないように一生懸命

に行政の方々は動いていただきまして、本当に感謝しております。

治水についての意見ということでしたので、九州の北部豪雨であるとか、広島  
の豪雨であるとか、本当に何十年に一度という水害が何年かに一回、場所を変え  
て起こっているということで、結局あの線状降水帯がどこにかかるかで、また来  
年、また近いうちにとということも考えられなくはないかなというふうに思っ  
ております。

とすれば、来年の梅雨までに時間はありませんので、とにかく子どもたちの安  
心・安全を考えれば、できるところからとにかくなんでも取り組むということが  
大事なのかなというふうには思っています。

川の土砂を取り除くとか、川幅を拡げるとか先ほどありましたけれども、あれ  
をこつこつやっっていくしかないのかなというふうに思いますし、専門家の方々  
の検証にそって効果的な堤防の場所であるとか、どれくらいかさ上げをすれば  
いいとか、そのあたりもやっていただくのが一番早いのかなというふうに思っ  
ています。

また、人吉・球磨をはじめ日本全国で高齢化と、地方は過疎化が進む一方です  
ので、長期的な計画になるのかもしれませんが、先ほどのように高台に住むとか、  
何かコンパクトシティといいますか、そこに集まってみんなで効率よく住むと  
か、そういうことも先々は考えていかなければならないのかなというふうに思  
っています。

人吉の中心街はまだまだ復興・復旧には程遠い状況のところが多い現状です  
ので、子どもたちをはじめ住民の方々の安心・安全を守るために、総合的にでき  
るところから施策をしていただくことが肝要かなというふうに思っております。  
みんなで力を合わせて人吉を守る、また熊本県を守っていかねばならないのか  
なというふうに思っております。以上です。

**【発言者⑮（熊本県立球磨中央高等学校）】**

球磨中央高校の〇〇と申します。どうぞよろしく願いいたします。

これから申し上げますことは、人吉・球磨の県立高校4校、人吉高校、球磨工  
業高校、南陵高校、球磨中央高校の4校の意見としていただければと思います。

今回の7月豪雨により大きな被害を受けたくま川鉄道についてですが、その  
くま川鉄道を利用して登下校している高校生は4校の在籍生徒数2,036名  
に対しまして、利用者数が872名、利用率で申し上げますと42.8%の生徒  
が利用していました。

くま川鉄道さんにお尋ねしたところ、完全復旧には3年から4年かかるとい  
うことでした。ただ肥後西村駅から湯前駅間については早ければ来年9月には  
部分運行ができるよう現在努力しているということでした。現在の登下校につ

いては、くま川鉄道さんによる代替バスの運行が7月20日より始まり、大変ありがたく助かってはおりますが、鉄道による通学のときより朝が早いことや、学校行事等の開催で同じバスに生徒が集中して、希望のバスに乗れなかったりという問題もあります。

今年の生徒募集においても、中学3年生の保護者からくま川鉄道がこのような状況だから、朝が早くてお弁当作りが大変なので、熊本市内の寮のある学校へ入学させようと思っているという声も聞きます。このような不便な面や生徒募集が心配されますので、ぜひ、くま川鉄道の早期復旧を、まずは部分運行が一日でも早くできるようお願いいたします。

最後に被災した児童生徒の心のケアと支援をよろしくお願いいたします。以上です。

(以 上)